

3月30日ISEP飯田哲也氏の仙台講演開催

「再エネと市民電力の未来」学習講演会

「出力抑制が進む中で市民電力の未来はあるか」という問題意識で準備された講演会を3月30日みやぎ地域・市民電力連絡会が開催。講師の環境エネルギー政策研究所（ISEP）所長飯田哲也氏が「世界の再エネは3倍化で膨らむ一方、日本の再エネは洋上風力以外停滞している」と警告を発しつつ、「それでも主役は太陽光、ノンFIT型の太陽光発電が市民や民間の手で拡大する」と将来を予測。強化される出力抑制については「九州の昨年の実績は世界基準に照らしても異常な数値。日本は気候対策より電力会社の企業利益が優先され、火力発電を抑える意識が低く、世界を超える抑制強化が続くだろう。東北は今後さらに抑制が増える」と予測。「ますますノンFIT型の普及が進む」と語りました。参加者は会場43名、オンライン21名でした。



「出力抑制誤作動問題」を水戸部秀利氏が報告

会ではきらきら発電理事長の水戸部秀利氏が昨年9月24日に発生した「出力抑制誤作動問題」を報告。同じく昨年誤作動を起こした中部電力は新聞報道しており、東北電力の隠ぺい体質が問題で、今後も東北電力をしっかり監視しなければならないと強調しました。そして昨年6月4日の出力抑制も5月4日と同じように火力発電を抑えれば抑制は必要なかった事実を紹介。また東北電力がひっぽ電力に送付した固定制御スケジュール表を示し、今年は去年の倍の抑制計画であることを紹介。



東北電力 NW が 500 力所の太陽光発電誤制御も公表せず

再生可能エネルギー発電所に対する出力制御（出力抑制）の運用で、東北電力ネットワーク（東北電 NW）が2023年9月に誤って太陽光発電所の出力を抑制していたことが明らかになった。9月24日（日曜日）の午前8時から午後4時の8時間、本来は出力制御の必要がない約500サイト（合計出力27.9MW）が出力を抑制されて、売電できなかった。同社では、当初、今回の誤制御について把握していなかったが、10月9日に誤制御された発電事業者が連絡窓口にお問い合わせたことをきっかけに調査に乗り出し、誤制御の事実と規模を確認したという。そこで10月30日から約500サイトの事業者には電話で連絡し、不通だった事業者には郵送で文書を送り、誤制御の事実と補償対応について伝えたという。今回の誤制御の原因について東北電 NW の説明を理解するには、出力制御のオンラインシステムの概要を知っておく必要がある。国内のオンライン出力制御では、大きく2つの方式が採用されている。1つは、専用回線によりリアルタイムで制御する方式、もう1つは、インターネット回線によりパワーコンディショナー（PCS）が持つ制御スケジュールを定期的書き換える方式だ。前者は特別高圧送電線に接続するなどの大規模な発電所、後者は低圧事業用太陽光など小規模な発電所に適用されることが一般的だ。（3月5日きらきら発電を取材された日経BP社の記事です）

きらきら発電の歩み(2)

2014年11月結成総会で井土浜・もりの子決定

2014年11月30日は雪がちらつく寒い夜となりました。それでも仙台市泉区の広幡家2階に12名集まってくれました。しかもその場に初対面で宮沢賢治のようにマント姿で参加された方がいます。現理事の太斎さんです。太斎さんは脱原発金デモでチラシを受け取った一人でした。

この日の総会に、若林区井土浜と太白区柳生もりの子保育園への設置の提案が用意できました。出だしの所でこんな速い動きができたのが経営的にも幸いしました。これを実現させたのがプロジェクトウサミです。

東日本大震災被災地若林区井土浜に1号機、太白区の保育園屋上に2号機

若林区井土浜は東日本大震災で36名が津波の犠牲になった地区です。しかも多くの方が国の援助を受けて自宅を解体し、ほかの地に移転していました。そこで共産党県議候補の福島かずえさんを介して地元井土ネギの生産組合組合員の太友新さんに土地の提供者を探してもらい、太友さんと職場(裁判所)が一緒だった方の住宅跡地を紹介していただきました。津波被災地の集落の復興支援を願う1号機の建設が決まったのです。

太白区柳生もりの子保育園は、宮城厚生協会から分離独立した宮城厚生福祉会の傘下にあります。福祉会に2014年10月協力を求めると、すぐ3か所の現地調査に協力してくれました。おかげで結成総会の日、もりの子保育園の屋根(右写真)への設置が提案できたのです。



無利子15年借入れの基金が建設資金に

それに10月1日に呼びかけた基金協力(無利子15年借入れ・目標3千万円)に、結成総会当日まで1,890万円の予約が集まったのです。これには宮城厚生協会理事長であり、若林クリニック院長である水戸部氏のネームバリューが大きく影響しました。基金の協力要請は5号機まで続けました(2016年より借入期間を10年に短縮)が、いつも目標を超過達成しました(総合計額が7172万円)。それほど、原発を止めたいと願う市民、自分の自宅には付けられなくても自然エネルギーに協力したいと思う方々が多かったのです。そんな思いを引き出したのが水戸部氏の基金協力の訴え文「戦争も原発もない社会めざして」だったのです。

こんなどたばた騒ぎでしたが、どたばたが功を奏し、翌2015年1月26日2機の認可が経産省より降りました。32円のFIT単価がその後のきらきら発電の経営に大変な力となりました。(広幡 文)

保険医協会がアルプス“処理水”海洋放出公開シンポ開催



3月10日(日)宮城県保険医協会公害環境対策部が「アルプス“処理水”海洋放出反対公開シンポを開催。水戸部秀利氏が司会で、3人がシンポジストとして発言。東北

大学農学部水産資源分野の片山教授が「処理水放出の可否を漁業者に求めることは非科学的であり、海洋放出が廃炉に不可欠という論理も成り立たない」と批判。卸の仙台水産廣澤部長は「安心・安全が保障されない海洋放出に断固反対」と述べ、みやぎ生協の河野副理事長は「海洋放出反対署名を25万筆集めた。毎日100トンもの汚染水が出ている現状を改善させることが本当の解決策」と強調しました。参加者は33名でした。

きらきら発電・市民共同発電所 ニュース
2024年4月115号
〒981-3215 仙台市泉区
北中山3丁目17-12
070(2010)3777
HP kirakirahatuden.com/
hirohata3888@outlook.jp